3

お　名　前	性　別	満年齢	終戦時の年齢	現 住 所
白井　久吉	男　性	９０歳	２４歳	一鍬田

①　８月１５日は，どこでどんなことをしていましたか。

大分県内の天風第１９０３６部隊で，主として暗号書の管理をしていた。この部隊は，昭和１９年１１月に東海地方（中部軍）の各隊からの寄せ集めで結成された。福岡で任務についていたが，２０年７月に大分に移動したばかりだった。主に，南方へ出陣する飛行機の中継所の役割を果たしていた。

（この飛行場の大隊には，警備中隊と補給中隊があった。Ｐ－３９－参照）

②　終戦のことを，どこで，どのように聞かれましたか。

部隊内のラジオ放送で聞くように指示があったが，よく聞き取れなかった。しかし，戦いは負けたんだということは分かった。その後に本部から連絡があった。

③　敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子

仮兵舎の中では，新聞さえもなかったと思う。情報は，もっぱら通信兵の無線が活躍した。この戦争は勝てない，負けると思っていたことが予想より早く来た。これで家へ帰れるとさえ思った。

しかし，部隊の経理を受け持つＫ主計中尉は，大きな石にもたれて泣いていた。残務整理ができ次第，部隊は解散となった。

敗戦となれば世界に誇る皇軍*1 も，軍人勅諭*2 も戦陣訓*3 も何の役にも立たない。

④　体験の中で，子どもたちに語り伝えておきたいこと

「思いつくままに」

１　うわさやデマに迷わされず残務整理を急いでやるように命令を出した部隊長は，兵器室の小銃で敗戦の３日目に自殺された。（Ｈ少佐）

２　福岡の雁ノ巣飛行場で，南方へ向かう航空兵をどれだけ送ったことか。低空で手を振って行ったが，鹿児島の知覧*4 から特攻隊として散った者もいた。

▲　大切な軍人手帳

（山本昇さん所蔵）

*1　「天皇の軍隊」という意味で，日本軍のことをこう呼んだ。軍隊は天皇のものであり，武器には菊の紋がついていて兵士の命より大事とされた。

*2　１８８２年（明治１５年），明治天皇が陸海軍の軍人に対して，軍人としてのあり方を示したもの。

*3　１９４１年（昭和１６年），当時の陸軍大臣・東條英機が示した軍人のとるべき行動のあり方。

*4　太平洋戦争末期の沖縄戦で，知覧飛行場は特攻隊の基地となった。

3　「一億一心」も，敗戦となれば春の淡雪である。

4　必勝を信じて還らぬ人となった英霊を忘れず。

5　アメリカ兵が九州へ一番早く上陸して来て，何をするか分からん。九州さえ逃げ出せば何とかなる，と兵舎の中は大やかましだった。

6　竹を割って飛行機の形を作り，それに網をかぶせ，飛行場の周囲に置いた。飛行機の着陸するところへは，土をつけたまま掘り取った松の根をコモで巻いてしばり，それを立て並べて林のように見せかけた。兵士と住民が協力し，飛行機の発着に合わせて松の木を出したり入れたりしたが，こんなことは長く続くはずもなく，アメリカ軍もだまされなかった。

7　部隊は異動してきたばかりで，飛行場整備はこれからという時に終戦となった。暗号書は，大きなトランクに入れて防空壕に厳重に保管された。暗号書が改正になると，西部軍司令部（山口県）で交換されていた。

兵士の服そうや持ち物

※（協力：奥三河郷土館）

二年生　図画工作教科書の兵士の絵

▲　上等兵の軍服

衣のう　衣類などを入れる袋

▲　陸軍の水筒

▲　弁当箱

鉄かぶと

ゲートル

※　これらは，実際に戦争で使われたものばかりです。